

情報システム学会 20 周年記念ワークショップ開催報告

20 周年記念プロジェクト 金子 聡

本ワークショップは学会創立 20 周年プロジェクトで企画を検討し、第 21 回全国大会・研究発表大会のプログラムとして、11 月 30（日）に実施されました。

開催の主旨として「当学会の理念や情報システムを取り巻く昨今の動きについて、参加の皆様が日頃考えていること、感じていることを少人数でのディスカッションを通じて共有し、各自の今後の活動、学会の活動に活かしてもらうことを期待して、ワークショップを開催する。」を掲げています。

次の 7 テーマで事前に参加募集を実施し、希望の多かった No.1～No.3 をテーマとして選定しました。

- 「人間中心」を再考する
- 情報システム人材の未来
- 情報システム学とは
- 浦先生の情報システム学を振り返る
- AI と人間中心性
- マイナンバー制度
- 自治体システムの未来を考える

ディスカッションテーマ

No	テーマ	内容	参加	司会
1	「人間中心」を再考する	10 年後の情報システムにおける「人間中心」とは具体的にどのような状態になっていけばよいのか、過去を振り返り、現在から未来を考えます。	4 名	芦江美沙音
2	情報システム学とは	発刊した『情報システム学』について、感想や意見を交換します。（実践例をお持ちの方の参加を歓迎します）	5 名	原清己
3	自治体システムの未来を考える	自治体システムの在り方はバラバラでよいのか（10 年後の姿も）作る側、運用する側、使う側を想定して考えます。	4 名	岩崎和隆

事前の会員向けメーリングリストでの告知、および前日の委員会報告の際に、ワークショップへの参加を歓迎する旨の告知をさせていただきました。事前申込では各グループ 3 名程度でした

が、当日参加の方も含めて各グループ4～5名となり、さらに5名ほどの方がオブザーバーとして参加されました。

会場が大きい教室であったため、他のグループの声が気になることもなく、また、飲み物やお菓子を用意されるなど、リラックスして会話できる環境が提供できたと考えています。

当日は9:50から1時間、各グループに分かれて司会役を中心にディスカッションを行い、その内容のサマリーをまとめました。12:50から全体セッション（1時間）で、各チームの司会担当から、それぞれのディスカッション内容を10～15分程度で報告いただき、全体で共有しました。

今回のワークショップのように特定のテーマに関して少人数の参加者間で意見交換を行うイベントはあまり例がなく、計画した規模で実施できた点、活発に議論できた点を考慮すると、おおむね目的を達成できていたと考えています。主旨に述べている通り、この場で得られた気づきを参加者自身の今後の活動に生かしてもらうことができれば、それが何よりの成果です。

講演会や研究発表での質疑応答とは異なり、発言のハードルを下げるのが、より活発な議論に繋がります。細かいことですが、お茶やお菓子を提供することで場を和ませることも一役買っていたと感じています。各司会の方が自発的に準備されたもので、私は失念しており、あわてて一部、調達に走った次第です。

参加者はすべて、それぞれの分野で多くの経験をつまれた方ばかりで、議論の広がりが感じられました。しかし、学生の方に参加いただけなかった点が残念です。オブザーバーでも良いので参加いただくことで、この学会特有の情報システムに対する理解を若い世代と共有できたらと改めて感じた次第です。次回、同様な機会を持つことができれば、学生の方々と交えて議論できるよう、準備の段階で十分な検討をしたいと考えています。

最後に、当日のディスカッションの報告資料作成など、短時間でのとりまとめをお願いした3名の司会役の方々に深く感謝いたします。また、ディスカッションに参加されたすべての方々、オブザーバー参加された皆様、会場の準備をして頂いた全国大会のスタッフの皆様に改めて感謝いたします。